

令和5年度地域包括支援センター事業中間報告（令和5年11月末時点）

印西市本埜地域包括支援センター

事業ごとの評価と計画	
総合相談支援業務	これまでと変わりなく、相談件数の半数以上が介護保険に関する相談であった。本人家族からの相談が大半を占めており、最近では医療機関からの相談も増えてきている。11月には、ジョイフル本田で出張相談を開催し、アンケートを実施したが、市内在住の方はほとんどおられず、今後の開催地は検討していくこととする。
権利擁護業務	高齢者虐待の通報は1件、住民からの通報であった。介入することで高齢者虐待の状態は解消された。成年後見制度については、成年後見センターと連携し、市長申し立て支援を行った。成年後見センターが設置されたため、センターに繋ぐことが多くなっている。消費者被害については、オレンジカフェで寸劇を行うなどの周知活動を行っている。今後も消費生活センターや警察と連携し周知活動に努めていく。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	高齢者支援の領域において、高齢者が住み慣れた地域での生活を続けられるよう切れ目のない支援を実施するために、地域住民、民生委員、行政、他機関など多岐にわたる関係者と連携している。また、介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメントが行えるための環境整備として、5包括共同で研修会の企画や運営を実施している。
地域ケア会議推進事業	今年度は未開催だが、年度内に2回開催する予定で現在調整中である。BCPの作成を義務付けられていることから、継続して防災について検討していき。また、交通手段についての相談が多いので、生活支援コーディネーターと協働して地域課題について取り組んでいけるように検討していく。
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議に出席し、市の事業計画を共有した。また、在宅医療・介護連携の市民講座の運営協力と多職種連携研修会に参加した。

認知症施策推進事業	<p>オレンジカフェについては、おおむね予定通り実施できている。移動の手段がないため地元での開催の要望もあり、今後できるだけ要望に合わせて企画していく。小学校の認知症サポーター養成講座においても、予定通り市と協力し実施することができた。その他認知症地域支援推進員としてメモリーウォークを開催した。チームオレンジで認知症サポーターのイメージキャラクター「ロバ隊長」のマスコットを作製してもらい、認知症サポーター養成講座を周知するなど、認知症の周知啓発を行うことができた。</p>
生活支援体制整備事業	<p>高齢者クラブやサークル活動との関わりを持つことができています。今年度は支部社会福祉協議会の事業である買物支援バスも再開し、みんなのカフェも開催に向けて準備を進めている。これらの事業をきっかけに、第2層生活支援コーディネーターが地域に出向く機会を増やし、個別のニーズや資源の把握を行っていく。また、把握した資源を、資源を必要とする地域の方々につなげられるように意識して活動していく。</p>
令和5年度事業中間評価（総括）	
<p>本埜支所内にセンターがあるためか、455件の相談件数のうち125件が来所相談である。支所の窓口に来られた相談者をセンターに案内してくれることが増えたことが理由と考えられる。引き続き連携を図っていく。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルスが5類感染症になったことで今まで開催を見合わせていた事業が再開しているため、地域の方との交流の機会を持ち、生活支援体制整備事業の推進にもつなげていけるよう努めていくこととする。</p>	